

岡山県と鳥取県の活用事例

指導者と酪農家が データを共有し解決策を探る

(社)家畜改良事業団電子計算センター電算課課長 相原 光夫

最終回は、地域の指導者と共に繁殖台帳Webシステムの活用に取り組む岡山県と鳥取県の事例を紹介する。

繁殖台帳Webシステムは、無料でWeb上の牛群検定成績を閲覧、操作できる家畜改良事業団が開発した牛群管理システムである。前回まで開発コンセプトやシステム利用法を紹介した。最終回は、実際にモデル実施した岡山県と鳥取県での事例を紹介したい。なお、紹介する2例はそれぞれ、おかやま酪農業協同組合三門隆之副調査役、大山(だいせん)乳業酪農業協同組合今吉正登課長補佐から当団機関誌LIAJニュースに投稿いただいたものを再編したものである。

(参照：LIAJニュースNo125、No126
http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kikan_siset.html)

プロジェクトチームを組織し支援

岡山県は瀬戸内海に面する温暖な地域から、中国山地の冷涼な高原まで幅広い地域性を有している。飼養戸数は中国・四国地方において最も多く、また、全国

1位の飼養頭数を誇るジャージー種を取り入れた特色ある酪農を展開している。

牛群検定の実施状況は、表に示す通り過半数の農家が牛群検定に参加し、利用に熱心に取り組んでいる。

牛群検定事業の実施主体であるおかやま酪農協においては、2007年に酪農支援プロジェクトチームを立ち上げ(現在はチーム長を含め兼務5人体制、以下酪農支援PT)、飼養管理や繁殖管理の技術的支援などを行ってきた。その活動は、ラクトコーダを用いての搾乳手順チェックやパーティクルセパレータを用いての飼料チェックなど、農家に理解してもらえるよう科学的な分析に基づく信頼性の高い技術支援を目指している。その主軸として用いているのが、牛群検定であり繁殖台帳Webシステムである。

繁殖台帳Webシステムでは牛群検定成績が自動的に読み込まれ、ユーザーは面倒なデータ入力することなく、検定組合(技術支援)と検定農家がデータを共有できるという特徴がある。通常の農家支援に加え繁殖検診など有効的活用も可能だ。また時として、外勤支援は農繁期や天候に

左右され時間調整など制約を受けることも多い。そういったとき、写真1のようにインターネットを通じて、農家と同じパソコン画面を見ながら電話で問題に取り組む(データの共有化)ことができることは極めて有効である。

酪農支援PTでは、モバイルパソコンを2台導入し現場支援に活用している。このモバイルパソコンはプロバイダー契約セットの0円販売のもので、月に数千円の利用料でどこでもインターネットを利用できる優れ物である。すなわち、どこでも本システムを利用できるのである。パソコンを所有していない農家であっても、写真2のように農家とディスカッションすることも可能である。

このような現場での利用体験を踏まえて、おかやま酪農協の三門副調査役は次のように述べている。

「従来の支援は、“出力したリストを農家に渡して終了、”というパターンが多かったが、本システムの利用で、農家との電話や、パソコン画面を一緒に見てディスカッションする形態へと変わり、実際にグラフや事例を見ながら問題に取り組むことが可能となった。酪農支援にとって重要なことは、畜主に現状の課題を認識してもらい改善の行動を起こしてもらうこと。本システムは、グラフを見ながら牛の状態を説明できるなど、支援ツールとしては極めて有効的なマストアイテムだと捉えている」

現地指導の一環にシステムを活用

鳥取県は鳥取砂丘を有することで知られ、典型的な日本海側気候である。特に中国地方最高峰の大山周辺は豪雪地帯で知られている。酪農は戸数・頭数では決して多い県ではないが、鳥取県の牛群検定加入状況は表に示す通り農家と検定牛ともにわが国1位の加入率である。

「原料に勝る製品なし」という言葉は、高品質の

表 岡山県と鳥取県の牛群検定の実施状況

	牛群検定実施状況 ¹⁾		参考(畜産統計) ²⁾	
	検定戸数(加入率)	検定牛頭数(加入率)	酪農家戸数	経産牛頭数
岡山県	229(58.0%)	9,001(68.7%)	395	13,100
鳥取県	138(73.4%)	5,990(88.9%)	188	6,740
全国	9,736(45.9%)	556,683(57.8%)	21,200	963,800

¹⁾2011年2月現在
²⁾2010年2月



写真1 検定農家と同一画面を見ながら電話指導

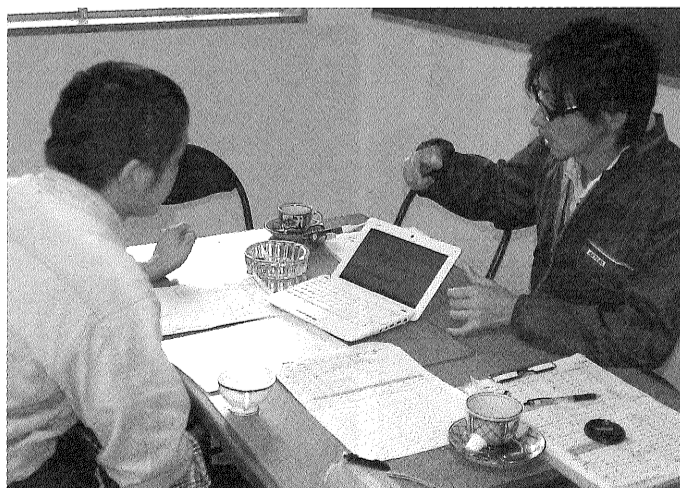
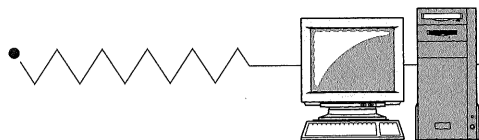


写真2 モバイルパソコンを持ち込み検定農家と協議



「繁殖台帳Webシステム」

による牛群管理 ③ 最終回

牛乳の生産を一貫して求めきた大山乳業農協の徹底したモットーである。高レベルの乳質管理には牛群検定が欠かせないと位置付け、熱心に取り組んでいる地域ともいえる。

鳥取県においては、従来から大山乳業農協内に飼養管理指導チームを置き、日夜指導に努めている。その活動内容は、例えば体細胞数に異常が生じた場合、即刻酪農家に足を運んで善後策を講じるといった現地指導に徹したものである。こうした体制の中で、10年4月から本システムのモデル実施をモバイルパソコンとプロジェクタをそれぞれ4台購入し行った。写真3は農家にプロジェクタを持ち込んだ定期経営検討会の模様であるが、農家の他に農業改良普及員、家畜保健衛生所、大山乳業農協といった関係者一同が集まりプロジェクタを用いて繁殖台帳Webシステムを大映しにして行っている。このような検討会は、関係者が農家の課題を共通事項として把握するのに極めて有効である。しかし、牛群検定データは個人情報でもあるため、あらかじめ情報閲覧の同意書の提出を求めている。

携帯電話でデータ入力

また、鳥取県では、本システムの特徴の一つである携帯電話を利用したデータ管理も積極的に進めている。パソコンを所有しない農家はもちろんであるが、現場である牛舎の中で持ち歩くにはやはり携帯電話が最適である。規模の大きな農家で複数の作業者がいるような場合も携帯電話をそれぞれ利用できるので錯綜(さ

くそう)することがない。

情報の入力も積極的に進めている。分娩や乾乳、授精といった履歴情報は、発生の都度データ入力を行うのが最も正確で間違いがない。携帯電話を用いることでそれが可能となった。さらには、獣医師、授精師にも協力を求め、それぞれが携帯電話で分娩や授精情報をその場で入力するようにした。入力した情報は、次回の牛群検定時に検定員のハンディーターミナルに反映しており、牛群検定を大幅に簡易化することができる。

これら現場での利用体験を踏まえて、大山乳業農協の今吉課長補佐は、「繁殖台帳Webシステムは、その斬新性から牛群検定のイノベーション(技術革新)と呼んでよいと思う。まだ、多少の操作性の悪いところもあるが、今後、このシステムの利用者が増えていけば、さらに改善され良いものになると思われる。鳥取県でのモデル実施が繁殖台帳Webシステムの全国的な普及の一翼になれば幸いだ」と述べている。

疑似操作できる体験版を準備

岡山県と鳥取県でのモデル実施による活用事例を紹介したが、両県とも、本システムの良いところを上手に利用していることが分かっていただけたと思う。両

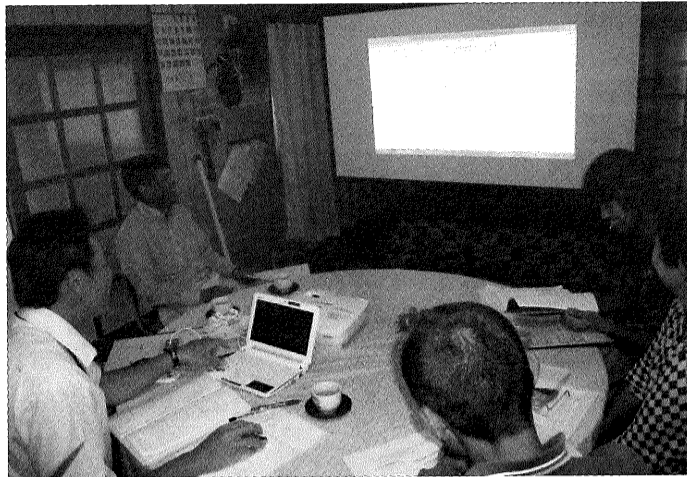


写真3 関係者を集めての定期経営検討会

県とも農家指導は、指導者と農家が牛群検定データを共有化することが重要としている。このことから家畜改良事業団では牛群検定に協力いただける獣医師、授精師また情報分析センターを中心とした農業改良普及員、農協指導員などと広く本システムを利用いただけるようシステムの整備を進めているところである。

本システムについては、プロモーションビデオ(動画)と、全ての機能を疑似操作で体験できる体験版を当団ホームページに準備しているので参照願いたい。

（社）家畜改良事業団ホームページ
<http://liaj.lin.gr.jp/>

プロフィール
あいはら みつお
1962年生まれ、宮城県出身。東北大学農学部畜産学科卒業。85年（社）家畜改良事業団入団。2008年から現職

放牧により適した 牛の精液の販売が始まりました

NZでの精液需要の78%を担う

NZ 全酪農家加入団体 家畜改良部門



- ・粗飼料主体の飼養管理でも高い乳成分
- ・一年一産を目指す繁殖能力+NZ牛の中では高い泌乳量
- ・放牧管理に適した特性

日本向けの牛は、NZの純粋なホルスタイン・フリージアン種の中から乳量が出て、繁殖成績が特に優れたものを、LICの専門家が選択しました。もちろん日本での登録も可能です。

www.nz-semen.jp

詳しい情報はこちら

放牧用資材
各種取り扱って
おります



被害防止 電気柵

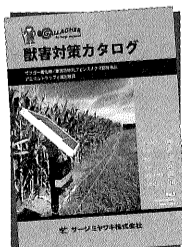
設置場所の地図と、対象動物・周囲の状況などをご連絡頂ければ概算で御見積りします(無料)

今年こそ
野生動物の侵入を
あきらめない!!



電気柵前に残るヒグマの足跡

獣害対策カタログ vol.3



サイレージ畑への侵入防止/家庭菜園の食害防止/アライグマ、ハクビシンなどの捕獲/クマから身を守るための護身グッズ

無料配布



サージミヤワキ株式会社

【東京本社】 〒141-0022 東京都品川区東五反田 1-19-2
Tel. (03) 3449-3711 / Fax. (03) 3443-5811

広告お問い合わせ先 【札幌営業所】 〒061-0213 石狩郡当別町字東裏 1338-10

Tel.0133-25-2222 Fax.0133-25-2255

www.surge-m.co.jp / www.gallagher.jp